

加賀提灯

歴史と特色 *Kaga Paper Lanterns*

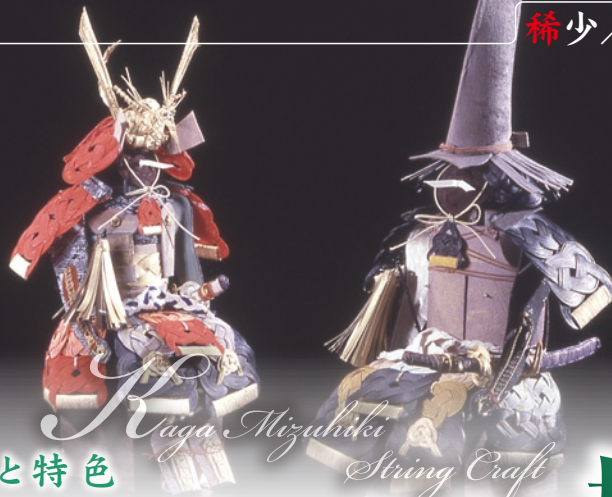
提灯は松明(たいまつ)に代わる携帯用灯火具である。16世紀後半に籠提灯が作られ、17世紀(江戸時代初期)には現在のような火袋の折りたたみ箱提灯が作られた。その後、ぶら提灯、高張り提灯、弓張り提灯、小田原提灯と種類も増え、用途も灯火用から祭礼用、観灯、装飾用と広がっていく。提灯の普及は江戸時代に安価な和ろうそくが生産されるようになったためでもある。金沢では、最盛期には60軒の提灯屋があったが、懐中電灯の普及、街灯の整備等のため激減した。現在は提灯と兼業した数少ない和傘職人が、祭礼用装飾用として製作している。加賀提灯は、竹ヒゴを1本1本切断して骨にしており、岐阜提灯等のように長い竹を螺旋状に巻いた提灯と異なるため、伸びが大きく、1本が切れても全部がはずれることがなく丈夫なことが特徴である。

HISTORY & FEATURES

In the late 16th century, paper lanterns replaced torches as a type of portable lamp; subsequently they became popular for use at festivals and for decoration. At the peak of their popularity, there were 60 lantern shops in Kanazawa. Whereas other lanterns are made of one long, spiral bamboo rod, Kaga lanterns consist of many thin rods of bamboo, a feature that makes them both flexible and durable.

情報 INFORMATION

主な生産地	金沢市(Kanazawa City)	主な製品名	祭礼用提灯、装飾用提灯(Festival lanterns, decorative lanterns)
主な生産者	五十嵐商店(Igarashi Shoten) 〒920-0903 金沢市博労町62 TEL (076)231-7441		



歴史と特色 *Kaga Mizuhiki String Craft*

水引は元来贈り物の飾りとして、主に祝事に用いられた。その語源は麻などを水に浸して皮をはぎ、ひもとしたことにあると言われ、紙の発達と同時に美しい水引ができたものと思われる。

江戸時代、武士や町人の頭にまげを結ぶ元結いとしても作られていた。現在は、材料の水引は県内で作られていないが、水引細工は技術も進歩し、特に慶事用の華やかな松竹梅や鶴・亀・宝船飾りなどが受け継がれている。また大正初期に、津田左右吉氏が屠蘇につける蝶からヒントを得て内裏びなを考案し、水引人形の基礎を作り、技法が津田家に伝えられている。この人形は、金沢の風土にあるわびさびの精神に通じる気品の高い人形として、高い評価を受けている。

HISTORY & FEATURES

Mizuhiki strings were used for wrapping presents on auspicious occasions, and the string craft developed along with the development of Japanese paper. Decorative *mizuhiki* string creations in the shape of pine, bamboo and plum trees, cranes, turtles and treasure ships are used for wedding presents. *Mizuhiki* dolls are also appreciated for being typical of Kanazawa culture.

情報 INFORMATION

主な生産地	金沢市(Kanazawa City)
主な製品名	内裏びな、芭蕉翁、婚礼用水引飾など(Emperor and empress dolls, Basho figurines, wedding ornaments)
主な生産者	津田水引折型(Tsuda Mizuhiki Orikata) 〒921-8031 金沢市野町1-1-36 TEL (076)214-6363

加賀水引細工